定期作況報告

（平成22年7月20日現在）

北海道立上川農業試験場天北支場

Ⅰ　気象概況

6月下旬から7月中旬までの気象は以下のように推移した。

6月下旬：平均最高気温が22.7℃（対平年比+4.9℃、以下同じ）、平均最低気温が14.4℃（+3.8℃）と平年より高かったため、平均気温は18.2℃（+4.1℃）と平年より高かった。降水量は10.0mm（38%）と平年より少なかった。日照時間は74.9時間（160%）と平年より長かった。畑地温は17.3℃（+4.8℃）と平年より高かった。

7月上旬：平均最低気温が14.8℃（+2.9℃）と平年より高かったため、平均気温は16.4℃（+1.2℃）と平年よりやや高かった。降水量は14.5mm(44%)と平年より少なく、日照時間は3.7時間（8%）と平年より短かった。畑地温は16.9℃（+3.1℃）と平年より高かった。

7月中旬：平均最高気温が21.2℃（+1.9℃）、平均最低気温が14.2℃（+1.0℃）といずれも平年より高いかやや高かったため、平均気温は17.4℃（+1.3℃）と平年よりやや高かった。降水量は99.5mm(220%)と平年より多く、日照時間は32.7時間（98%）と平年並であった。畑地温は16.2℃（+1.5℃）と平年より高かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の3旬の平均は17.3℃（+2.2℃）と平年より高かった。降水量の3旬の合計は124.0mm（119%）と平年並であった。日照時間の3旬合計は111.3時間（86%）と平年並であった。畑地温は16.8℃（+3.1℃）と平年より高かった。

4月からの主気象要素の積算値（畑地温は5月から）は、平均気温、降水量、日照時間、畑地温はいずれも平年並に推移している。

a．気象表

項目＼月旬	6月下旬			7月上旬			7月中旬			３旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温（℃）	18.2	14.1	4.1	16.4	15.2	1.2	17.4	16.1	1.3	17.3	15.1	2.2
平均最高気温（℃）	22.7	17.8	4.9	18.5	18.9	△ 0.4	21.2	19.3	1.9	20.8	18.6	2.2
平均最低気温（℃）	14.4	10.6	3.8	14.8	11.9	2.9	14.2	13.2	1.0	14.5	11.9	2.6
降水量（mm）	10.0	26.0	△ 16.0	14.5	32.9	△ 18.4	99.5	45.3	54	124.0	104.2	19.8
降水日数（日）	4	4	0	6	3	3	6	5	1	16	12	4
日照時間（hrs）	74.9	46.9	28.0	3.7	45.3	△ 41.6	32.7	33.5	△ 0.8	111.3	125.7	△ 14.4
平均畑地温（10cm,℃）	17.3	12.5	4.8	16.9	13.8	3.1	16.2	14.7	1.5	16.8	13.7	3.1
最多風向	SW			E			E					
平均風速（m/s）	2.7			2.8			2.1					

注１）平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。
２）平年値は前１０か年の平均より上川農試天北支場作成。
３）降水量、降水日数、日照時間の３旬平均欄は３旬の合計値。
４）△印は対平年値比減を示す。

b．主気象要素積算値（4月21日～7月20日）

	平均気温（℃）	降水量（mm）	日照時間（hrs）	畑地温（℃）
本年	1,071	215.5	473	842
平年	1,040	250	436	725
比較	31	△ 34	37	117

1）畑地温は5月21日～6月20日の値.

Ⅱ　作　況

１．採草型　チモシー（２番草）　　作況：平年並

事由：前番草刈取後、気温が高く、降水量が少ない状態が続いたが、再生には特に問題は生じなかった。７月中旬の降水により干ばつ傾向が解消され、草丈が平年並となったことから、前番草における生育不良はほぼ解消したと見られる。

以上より、目下の作況は平年並である。

調査項目：

草　丈（cm）		
本年	平年	比較
36	34	2

注）平年値は前7か年のうち、平成19年(最凶年)及び平成20年(最豊年)を除いた5か年平均値。

２．放牧型　ペレニアルライグラス（３番草）　　作況：やや不良

事由：前番草刈取り後の高温及び干ばつ傾向により、生育は緩慢であったが、その後の降水により生育は回復した。草丈は平年より19cm高く、乾物収量の平年比は135％となったが、これは例年の同番草に比べて出穂茎が多かったことによる。なお、過去７カ年の作況調査結果では、出穂茎の増加による収量の増加は２番草で生じているが、本年は３番草で生じており、生育がやや遅延していると見られる。また、２番草と３番草を合計した乾物収量の平年比は78％であり、生産性が完全に回復したとはいえない。

以上より、目下の作況はやや不良である。

調査項目：

草　丈（cm）		
本年	平年	比較
54	35	19

生草収量（kg/10a）			乾　物　率（％）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
1,066	684	382	15.8	18.6	△2.8	168	124	44	135 ％

注）平年値は前7か年のうち、平成18年(最豊年)及び平成19年(最凶年)を除いた5か年平均値。